
創造主は高校生

山田春樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

創造主は高校生

【Nコード】

N2725D

【作者名】

山田春樹

【あらすじ】

恵まれ過ぎた環境に育った少年はいつしか無感動な性格に。「この世界は一度も期待に応えたことは無い…。」しかし新学期の朝。金色の座布団に乗った老人と出会ってしまったために少年の日常は激変する。果たして老人が少年にもたらす世界とは…？非日常系ファンタジーストーリー！

プロローグ（前書き）

初めての小説投稿です。長編の予定ですので宜しく願います。

プロローグ

高校2年の春。

俺>>長井正義ナガイマサヨシ<<は足取り重く桜並木通りを学校目指し歩いていった。通っている高校は聖皇高校>>セイオウ<<。お堅い進学校だ。何故足取りが重いのかというと、また猫を被らなければならぬからだ。いや、真面目な話。俺の親父のはNOCの社長。そう、パソコン作ってる会社。社長ともなると「子育てに失敗できない。」らしい。だから小さい頃から厳しかった。小学校にもなると習い事地獄になった。月曜日から金曜日まで全て埋まっていた。ピアノ、習字、茶道、塾、剣道。土曜日は親父のチエック。一週間の成果を見せなければならなかった。唯一の休みは日曜日。でも大抵宿題で潰れた。おかげで小さい頃はほとんど遊べなかった。中学から持っている携帯も監視されていた。メル友なんてもつてのほか。一週間で6時間だけ自由だった。その貴重な6時間は決まって外に遊びに行った。「普通の友達」が欲しかった。親の連れてくる連中はいつもこいつも常に敬語で、親第一。一緒に笑うことができるやつなんて1人もいなかった。でもそんなある日。町はずれの公園で初めて「普通の友達」ができた。その日彼女は公園で一人さびしくブランコに乗っていた。暫く眺めていると、こちらに気づき

「一緒に遊ばない？」と声をかけてきた。

「うん。」

「あたしは田中奈央。君は？」

「正義…長井正義。」

笑われると思った。だって…正義って書いてまさよしだぜ？でも意外な返事が返ってきた。

「正義君か。よろしく。」

そう言っただけで笑む彼女の笑顔が印象的だった。生まれて初めて暖かい笑顔を見た気がした。曇り空の下、小さな太陽が俺の目の前で輝いていた。もう7年も前の話だ。いわゆる幼馴染というやつだ。あそここの木の陰で俺を驚かしてやろうとしているのが、奈央だ。反対側から驚かしてやった。

ブローグ

「わっ！…いうえをー。」

「キャッ！びつくりしたー。」

「この俺様を出し抜こうなんざ千年早いわ！」

「ナーニがこの俺様よ。」

奈央には本当の自分をさらけ出せる。思ったままに話せる。一緒に笑える。誰にでも心の拠り所くらいは必要だ。

「じゃ、あたし学級委員の仕事あるから先に行ってるね！」

「おう。こけるんじゃないぞおー。」

「コケないつてばあ。じゃね。」

聖皇高校>>セイオウ<<は上り一回下り一回の道の先にあるため、毎日の登下校は骨が折れる。せめて上りか下り片方にしてほしいところだ。行きも帰りも1km前後も登るのは辛い。

桜並木を抜けてようやく坂道に差し掛かった時、突然右からもの凄い勢いでぶつかられた。

「どこ見てあるいとしじゃ！餓鬼イ！」

「すみません。（前方不注意はそっちだろ…。）お怪我はなさいませんでしたか？」

ただでもお堅い高校なのに、登校中に事故ったなんていったら停学食らうかもしれないから、一応猫被っとなきゃな。

「重症じゃ。わしの大切なネイルアートが台無しじゃ！」

「も、申し訳ありません。（大・爆・笑）」

「朝っぱらから二日酔いのタヌキみたいな面しておって。ったく近頃の若いもんは……。」

「アあ?! てめえからぶつかってきたくせに何言っ……。」

……そのジジイは怒っていた。その老人は黙った。そのご老人は銃をお取り出しになられました。

「いやっ、あのなんていうか……。」

「なんていうか?!」

「大・変申しわけありませんでした!!」（土下座）ORZ

俺は眼を疑った。驚いた。たまげた。2つの意味で。今気づいたのだが、自転車とぶつかったとばかり思っていたがその爺さんが乗っていたのは宙に浮いている金の座布団だった。よく見れば背広に蝶ネクタイをしていた。俺の眼が狂っていなければ、俺は拳銃を突きつけられていた。この爺さんはどうやら頭がいつちゃった人だ。きつとそうだ。いや絶対イツチャッタ人だ! じゃなければ道端でぶつかっただけで相手を銃で殺めるなんて発想で出てこないぜ? 普通。まだ死にたくない。死を回避するため俺はまた土下座をした。冷た

!!
い金属が頭頂部にあたるのを感じた。新学期そろそろ大ピーンチッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2725d/>

創造主は高校生

2010年10月10日06時48分発行